

特集

市民が読みたくなる広報紙

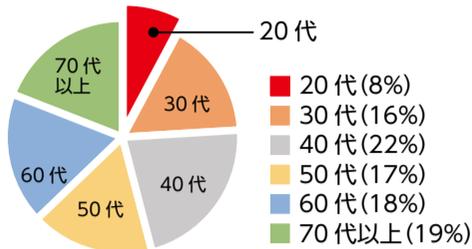
教育現場では、生徒一人ひとりが将来社会人として自立するために必要な力を育むための「キャリア教育」が推進されています。今回は、首里東高校の生徒が授業の一環で考えた「市民が読みたくなる広報紙」の中から、二つのグループに企画から取材までを行ってもらいました。

高校生ならではのフレッシュな視点で、那覇市の魅力をお伝えします。

〒900-0001 那覇市 関公 1-1-1 那覇市役所 秘書広報課 ☎862・9942

■那覇市に関する情報の主な入手方法  
1位 広報紙 2位 テレビ 3位 新聞 4位 市HP

■年代別の広報紙の活用割合



※平成28年度那覇市民意識調査報告書を基に作成

若い世代の広報紙への関心が薄い!?

若い人たちにも読んでもらえる記事を作ってみよう!



高校生のみなさん、那覇市では毎月1回広報紙を発行しているのを知っていますか?

見たことはあるけど、広報紙って読んだことないな...

どんな内容だったら、もっとたくさんの人に読んでもらえると嬉しいですか?

そうだ! 古着屋さんの紹介はどうだろう。

市内のパワースポット巡りも面白そう!

FISH BOWL



場 松尾2-5-27  
営 12時~19時 休 不定休  
☎ 866-9650



取材を終えての感想

私たちは、10代の方にも広報紙を手にとってもらうために、古着屋の取材を行いました。初めは緊張していたけど、オーナーさんがユニークな方だったのでリラックスできました。

お店の中は、洋服だけでなくヴィンテージ雑貨から今流行のものまでたくさんあって、私たちの取材中もたくさんのお客さんにぎわっていました。

フィッシュボウルさんのような古着屋さんの特集を組むことで、10代の方も広報紙を読んでくれると思います。

これからは若者をターゲットとした企画を広報紙に取り入れることができればいいなと思いました。



いろいろなお客さんが来て、自分の好きな服を見つけてくれることですね。できるだけ良いものを安く提供できるように、また、楽しんでもらえるよう面白いものを仕入れるように心がけています。

Q2. 古着の魅力とは?

アメリカの大学に通っていた時に、ちょうど日本が古着ブームだったんですね。すると、日本にいる知人からアメリカで古着を買って送ってくれないかと頼まれて、購入し送ったのがきっかけです。その後、商品の買い付けをするバイヤーを10年経験し、そろそろ自分の店を持つのもいいかなと思って今の店を始めました。

Q1. 古着屋を始めたきっかけは?

アメリカの大学に通っていた時に、ちょうど日本が古着ブームだったんですね。すると、日本にいる知人からアメリカで古着を買って送ってくれないかと頼まれて、購入し送ったのがきっかけです。その後、商品の買い付けをするバイヤーを10年経験し、そろそろ自分の店を持つのもいいかなと思って今の店を始めました。

企画第1弾  
長年、浮島通りで古着屋を営んでいるオーナーの石原さんへお話を聞きました。

Q3. 仕入れの方法は?

コロナ禍なので今はLINEやZoomを活用しながらオンライン上でやり取りしています。でも、やっぱり直接見て触れて、商品の良さを自分の手で確かめたいですね。

Q4. 店を始めてよかったことは?

人生の中で楽しめる場所を得られたことです。自分の店をもつて今年で25年になります。最初は数年くらいかなと思っていましたが、楽しくて今も続けています。たまに、学生の時に来ていたお客さんが親になり、子どもと一緒に来ているのを見ると、すごく温かい気持ちになります。

Q5. 印象に残っているお客さんは?

福岡から来る80代のおじいちゃん。奇抜なファッションだけど、すごく似合っていて、とてもオシャレなんです。

Q6. 人生の先輩として、私たち学生へのアドバイスをお願いします。

周りには経験豊富な大人たちがたくさんいるので、自分の進みたい道に進めるよう、なんでも聞いて色んな事に挑戦してください。思い立ったらすぐ行動!

可愛い服がたくさん! せっかくなので、

お店にある洋服でコーディネートにチャレンジ!

